

老人と稲

老人——いつもの年と同じ頃に同じように君を田んぼに植えたが、今年は梅雨がなかなかあけなかった。

稲——そう。今年が体が育つ大切な時期に日光に恵まれなかった。人でいうと十代の成長期に食べ物が足りず、おなかですいていた。だから、栄養不足の痩せた体で(株別れの少ないまま)栄養成長を終え、生殖成長に入らざるを得なかった。

老人——生殖成長の初めの一步、花が咲くのもいつもより五日ほど遅れた。

稲——栄養成長の時間を引きのばして体を大きくしようとしたが、もう待てなかった……。

老人——花が咲いたころから天候がよくなって、夏が来た。

稲——夏の日光をいっぱい浴びられると喜んだ。小さい体ながら、「いっぱい食べて、いい子をいっぱいつくろう！」と。

老人——が、それもつかの間、早々と秋雨が来た。

稲——日光が足りない、食べ物が少なくてひもじい……。痩せた体を上から大粒の雨がたたたく。我慢しきれず、倒れてしまった。ごめん。

老人——倒れた君を刈り取るには苦労した。時間が二倍かかるし、借り残しが出るし。

稲——こっちは、ねらいを「いい子をいっぱい」から「いい子を」にしぼって頑張った。できた子の数はいつもの年より少なかったけれど、いつもの年に負けないいい子ができたのでは？

老人——その通り。味やかおりは、いつもに負けない。ありがとうよ！

最上流米コシヒカリのパンフレットを同封させていただきました。

ご注文をお待ちしております。

令和元年 十月 吉日

穂山 恒男